

第14講 子どもと博物館、子どもの博物館

1. 子どもと博物館 音声ファイル1 Kyoiku2024_14-8.mp3

1) 教育場面から見た子どもの特徴

本講でいう子どもは未就学児から小学生低学年を想定している。子どもの特徴を博物館の視点から記すと、小さな身体、低い視線、弱い力、少ない知識や経験、集団へのなりやすさ、身体バランスの悪さなどがある。とりわけ未就学児の場合、視力の未完成、身体機能や運動神経の未発達、集中持続時間の短さ、があげられ、乳幼児であれば派手な色や正面からの視線を好むなどの傾向もある。展示や教育事業は、これらの特徴を踏まえたうえで展示や教育事業をおこなう必要がある。さらには子どもを対象に据えた子ども博物館を設計する場合もある。子ども博物館や科学館がその例となる。

子どもの特徴を捉えたテレビ番組にNHKのEテレ（教育テレビ）の「おかあさんといっしょ」と「セサミストリート」がある。両者ともに番組は短いコーナーの集成となっている。これを博物館の展示や教育事業にそのまま応用することは難しいが、参考事例として覚えておきたい。

2) 発達への配慮

子どもに向けた展示での配慮は、視線の高さを意識した陳列、押しボタンや操作装置に必要な力の調整、解説文章の漢字の制限やふりがななどが必要となる。これらは心と身体の発達段階への配慮と言い換えることもできる。内容では触れる展示や操作操縦、身体を動かす装置などの体験的要素が好まれる。

未就学児は成人向けに調整された日常生活が不便で苦痛を感じている。大きすぎたり力が足りなかったりと。経験的には、子ども向けアレンジされた小さなイスや机があるだけでうれしいように見える。

3) 博物館の心掛け

子どもに向けた展示の要点は、①展示資料の位置や高さは視線に合わせて低く、②ボタンなどの操作装置は軽く、③動作までの所要時間は短く、④文章は可能な限り少なく、⑤結果はわかりやすく、などとなる。これらは成人に向けた展示でも共通する注意点である。



上から

色鮮やかな展示装置が置かれた展示室（大阪市立科学館）

触る、動く、動かす、体験が好まれる（福岡市科学館）

身体能力も考慮する必要あり（京都市青少年科学センター）

ディスカバリーコーナー（福井県立恐竜博物館）

2. 子どもに向けた展示

1) 体験展示

子ども向けの展示は体験型の展示がよこばれる。文章や知識よりも身体で感じて納得するような展示である。このような展示は科学館が得意とする。物理学分野の力学や電気のように法則に沿った再現性が高く、結果がすぐにわかり、線形に変化する、そのような現象、あるいは化学分野であれば変化が肉眼視覚的に明らかな化学変化などでは容易に思える。他方、生物分野では拡大模型の操縦、昆虫や野鳥の室内での疑似観察、人文系の民俗分野では簡単な機会の疑似操作、歴史系では衣装の着用などがおもな体験展示となっている。体験展示を生物や歴史・民俗の分野で展開するには工夫が必要である。

2) ハンズオン：触れる展示

ハンズオンとは触れる展示である。通常、博物館の展示資料は触れることを許さない。つまり hands off である。それに対して手を置く触れることが可能な展示資料を hands on 展示と呼ぶ。体験展示は手で触れる腕で抱えるなど、来館者の身体への接触を伴うことがある。博物館の展示は離れて見ることに限定されていることが通常である。このように手や身体で触れるハンズオン展示は体験展示の一種である。

3) 動物園・水族館

動物園での体験は「ふれあい動物園」に見られる。おとなしい小動物の抱きかかえ、給餌などの飼育体験などがメニューとして用意されている。水族館の体験展示はタッチプールや餌やりとなる。タッチプールでは安全で接触に強いヒトデやナマコなどの棘皮動物やサメの仲間（板鰓類）が用いられることが多い。

4) 自然系施設

国立公園や野鳥公園などには展示室を備えた導入施設がある。名称はビジターセンター、エコミュージアムセンターなど区々「まちまち」であるので日本野鳥の会が使う

「自然系施設」の語を用いる。ここでも岩石や貝殻など接触による変化や影響が少ない、接触に強い資料を利用したハンズオン展示が見られる。ただし、生き物の行動や生活史、進化的視点などはセルフガイドでは伝達が難しい。



上から

生物分野の体験展示は押しボタンなどになりがち（国立科学博物館企画展 2017「卵からはじまる形づくり」）

宇宙飛行士訓練用装置を模した宇宙ゴマ（琵琶湖博物館）

糸巻きなどの体験展示は退屈か（岡谷蚕糸博物館）

自然系施設のハンズオン展示（ふなばし三番瀬環境学習館）

音声ファイル 2 Kyoiku2024_14-9.mp3

ミニ企画展「いきもの探偵」を終えて：自然科学のとびら, 21(3) (神奈川県立生命の星・地球博物館 2015)

https://nh.kanagawa-museum.jp/www/pdf/tobira81_3fujita.pdf Kyoiku2024_14-2.pdf

(5) 観察装置展示 [環境省ビジターセンターの展示に関する指針] Kyoiku2024_14-3.pdf

https://www.env.go.jp/nature/park/tech_standards/08_3-4-4.pdf

3. 子どものための博物館

1) 子ども博物館

博物館によっては、子どものために展示室そのものを作ることがある。英語圏では children's museum、日本語でも少数であるがチルドレンズ・ミュージアムと名乗る施設もある。釧路市こども遊学館は科学館に砂場を設け、一般の科学館よりも低年齢に向けた内容にした。北海道では冬は積雪と凍結で砂遊びができないため好評である。英語名称は Kushiro Children's Museum。公式サイト

<http://www.kodomoyugakukan.jp>

キッズページリンク集（美術館・博物館など） | 国国会図書館国際子ども図書館

<https://www.kodomo.go.jp/info/kids/museum.html>

2) ディスカバリー・ルーム：発見の部屋

子ども展示室を「ディスカバリー・ルーム」discovery room と呼ぶことがある。キャッチーな名付けと思えばよい。内部の空間は原色の色使い、親しみやすいキャラクターの多用といった特徴が見られる。

スミソニアン協会自然史博物館のディスカバリー・ルームのバーチャルツアー

https://naturalhistory2.si.edu/vt3/NMNH/z_NMNH-030.html

3) 仕事体験施設

子どもにとっては大人が働く現場は別世界。その疑似体験が楽しみとなり商業施設として成立する。労働を重視した旧ソ連では国家事業となっていた。

キッズニア(KidZania)オフィシャルサイト | こども向けの職業体験型テーマパーク <https://www.kidzania.jp>

キッズプラザ大阪 - 遊んで学べるこどものための博物館 <https://www.kidsplaza.or.jp>

子どものための鉄道は何のためにあるのか？ (写真特集) - ロシア・ビヨンド

<https://jp.rbth.com/lifestyle/83813-kodomo-tetsudou-nan-no-tame-ni-ar>

4) 新型コロナ後の体験展示

ウィズ・コロナ時代のハンズオン展示：全科協News, 51 (全国科学博物館協議会 2021)

https://jcsm.jp/.wps/wp-content/uploads/2022/05/NEWS_vol51no1.pdf Kyoiku2024_14-4.pdf



上から 釧路市こども遊学館の砂場
スミソニアン協会自然史博物館のディスカバリー・ルーム
東京国立博物館の西にある国際子ども図書館の建物



上段：国立子ども科学館（ソウル）

左：大掛かりな玉転がし展示、右：揚水装置

両者ともハンドルが重く子どもが動かすのは困難。苦勞して動かしても球の動きが遅く子どもは結果が出る前に離れる

中段：国立中央博物館（大田）

左：鍋の素材による熱伝導の比較、右：生物の展示は模型が多い、これは染色体とDNA

下段：国立釜山科学館

左：原色を多用した子ども展示室、右：ゾウを用いた印象的な浮力の説明

右写真：国立海洋博物館（釜山）

子ども展示室でも竹島を取り上げている



別に動画ファイルあり

[kyoiku2024_14-5.m4v](#) ソウル市立科学館_竜巻発生装置 大規模な展示装置

[kyoiku2024_14-6.m4v](#) 国立子ども科学館（ソウル）_人体持上滑車 重くて十分に上げられない

[kyoiku2024_14-7.m4v](#) 国立子ども科学館（ソウル）_玉転がし 球の動きが遅く繰り返しが退屈